

【移植コーディネーターからのお知らせ】第7号

厳しい暑さが続いており、体調を崩しやすい季節ですが皆様お変わりありませんでしょうか。

新型コロナウイルス感染が5類に引き下げられましたが、新型コロナウイルスに罹患される方や通常の風邪でも症状が長引く方が依然多くいらっしゃいます。皆様におかれましては引き続き感染対策の徹底と継続をお願いいたします。

さて、今回は「带状疱疹ワクチン（シングリックス）」接種についてご案内いたします。当科では患者さんの健康を守るためにも带状疱疹ワクチン接種を改めて積極的に推奨していくこととしました。

带状疱疹は加齢などによる免疫力の低下が発症の原因で、神経節に潜伏しているウイルスが免疫力の低下により活性化して発症します。神経に感染するため、水疱が治癒後も後遺症として神経痛が残ることがあります。頭部の感染では、頭部から顔面に症状が現れ、視力低下や失明、顔面神経麻痺に至ることもあります。重症例では、髄膜脳炎を発症し致命的になる場合もあります。腎移植後患者さんは免疫抑制剤の影響で免疫力が低く重症化リスクが高いため、早期の抗ウイルス薬による治療と免疫抑制剤調整が必要です。

带状疱疹についての対策は以下の通りです。

- ① 身体に発疹や水疱などの症状が出た際は、早急に診察を受ける。
带状疱疹と診断された場合は、すぐに治療を開始する。
→ 早期対応が重症化予防、後遺症予防のためにとっても重要です。
遠方で当院受診が難しい方へも適切に対応いたしますので必ずご連絡をください。
- ② 带状疱疹ワクチン（シングリックス）を接種し予防する・重症化を防ぐ
→ 带状疱疹ワクチンは「生ワクチン」と「不活化ワクチン」の2種類あります。
移植後患者さんは「不活化ワクチン」であるシングリックスのみ接種できます
1-2ヶ月の間隔を空けて2回接種が必要です
すでに接種を完了している患者様は追加接種の必要はありません

つきましては、患者様の接種歴を把握するため、以下の内容をご一読くださいますようお願いいたします。

